

# 宗教教育の未来：比較神話・宗教学への脳生理学、環境歴史学、

## コンピューターサイエンスからのアプローチ

ステーヴ・ファーマー

これまで比較神話・宗教学は、資料の無批判な受容、検証不可能な諸理論、そして通俗化した姿でしばしば認められる「ニュー・エイジ」の宗教イデオロギーとの類似などのために、必ずしも良い評価を得てこなかった。そのため、遺伝子学、言語学、考古学などが人類の先史を再建しようとする際にも、補佐的分野としての科学的価値は極めて限定的とされてきた。また上述の理由から現代社会では、教育分野において比較神話学への関心は低下し、科学的な領域においても方法論的に厳密さに欠けるとして一般に低い評価に甘んじてきた。

この分野におけるいまだ修正されていない問題点としては、比較の資料として不完全な翻訳や誤解されやすい摘要集（一部は後の時代にかなり加筆されたものである）に過度に依存していることや、地球上の異なる地域からの、そしてはるかに離れた時代の、過度にあるいは不十分に報告された神話群をまとめたハンドブックやデータベースを無批判に用いていることが挙げられる。そしてこれらの問題点は、共通の起源とか長距離の伝播からの生じた神話の類似と、並行して発達した結果として生じた表面的な類似と区別することをしばしば困難にするように働くものである。

地球全体規模での交流の増大（この会議もその例のひとつだが）も助けとなって、こうした問題点への意識は高まりつつある。加えて、文化脳生理学（脳と文化の研究）およびその関連諸領域の研究の広がり、比較神話学・宗教学の研究と教育を科学的立場から推し進めるための新しい手段と方法論を提供しつつある。

本発表ではこれからの時代に爆発的に拡張するであろうと期待される四つの関連する分野とその展開を概観する。

1. 文化脳生理学（または「進化心理学」）の急速な発展の結果として、この分野では神話と原初的宗教の深い生物的起源（いわゆる「社会脳」の過程において）の問題をめぐり、近年、広く共有される合意が生まれつつある。

2. 生態学的要素の研究や文化脳生理学は、生態学的条件の変化によって生じる、神話の形成と変更における繰り返し認められる特徴的な傾向について、確率的な予測を行なうことを可能にするだろう。

3. 文字利用のテクノロジー及びそれに関連した人口面での変数群（これが複数の脳の間でのネットワークにおいて伝承がどう蓄積され改編されるかに影響を与える）の変化が、長い期間にわたった手書き文化の時代に想定される構造的諸パターンという点において、神話と初期の宗教をどう変容させたかの研究。

4. 文化モデルのソフトウェアの発達によって、上記三つの要素に係わる理論的観念を現実的なコンピューター・シミュレーションの場で再現し、テストすることが出来るようになる。

そして最後に、これまで試みられてきた中でも最も強力な文化モデルのソフトウェアについて紹介する。これは現実的なやり方で神話や宗教を「成長」させる能力を有するし、現存する歴史的データと照らし合わせてクロス・チェックできるものである。このソフトウェアは現在、合衆国のコンソーシアムにおいてかなり進んだ段階のテスト中だが（Farmer, Zaumen, Witzel et al. 準備中）、研究や教育において幅広い活用が期待されている。発表ではこの点にも触れたい。

ステーヴ・ファーマー：国際比較神話学会ディレクター、カリフォルニア州パロ・アルトの<文化モデル研究グループ>のCEO および研究ディレクター。